

入試年度	2026年度	入試時期	Ⅱ期入学試験	実施日	2026年2月18日
課程	博士前期課程	研究科	国際日本学研究科	専攻・コース	国際日本学専攻 ポップカルチャー研究領域
入試方式	一般入学試験/ 外国人留学生入学試験		試験科目	専門科目	

「出題の意図」および「解答」または「解答例」

I. 論述問題

【出題の意図】

2題のうち1題を選んで、マンガ・アニメ・ゲーム・特撮等の歴史を、特定のテーマや観点に沿って整理して述べるができるかを問うている。なお、実質的に小論文を記すことを求める問題であり、多様な回答が考えられ、その全てを示すことは分量が膨大になりすぎ、また一部のみを示すことは出題の趣旨をかえって誤って理解させるものとなるため、一意の解答例は公表を避ける代わりに、キーワードや採点時に重視した観点を解説する。また、下記の解答例から離れた内容の解答であっても、問題文に即して内容が的確であれば適宜評価するものとした。

【解答例（採点時の観点）】

- (1) 1970年代には搭乗型巨大ロボットをフィーチャーしたテレビアニメの嚆矢である『マジンガーZ』にて主人公のガールフレンドであるヒロインが頻繁に女性型ロボットに搭乗するも戦闘のサポート役がメインであったこと、同年代のロボットアニメが主に男児をターゲットとし、ロボット等の玩具を商品展開するスポンサーによって成立していたこと、1980年代には女性主人公がロボットに搭乗して活躍する作品として『機動警察パトレイバー』や『トップをねらえ!』が現れていること、両作品が主に青年以上のアニメファン向けに作られるOVAとしてリリースされていること、70年代までの女性パイロットは紅一点であることが多く、博士の娘などの設定が多く見られたが、次第に1作品の中に複数の女性パイロットが現われるようになり、各人が明確な役割を持つようになること、1990年代には少女向けテレビアニメ『魔法騎士レイアース』にて3人の女性主人公たちがロボットに搭乗して活躍することなどを記しつつ、アニメの年代やターゲット層、収益モデルなど複数の観点から、歴史的ナラティブを構築する論述のしかたができていのかを評価した。
- (2) 『天才バカボン』に登場するおまわりさんや『がきデカ』の「こまわり君」などギャグ作品の中で威嚇射撃や警察権力を濫用するような過激な言動を繰り返す事例、『こちら葛飾区亀有公園前派出所』の「両津勘吉」のように問題行動を起こしつつも人情味を持つ事例、『ルパン三世』の「銭形警部」や『キャッツ・アイ』の「内海俊夫」など怪盗を主役とする作品にてその主役を追いかけつつも一歩およばないライバル役となる事例、『名探偵コナン』の「目暮警部」や『金田一少年の事件簿』の「剣持警部」など探偵を主役とする作品にてその探偵より推理力は劣りつつも有力なサポート役となる事例、『機動警察パトレイバー』の「特車二課第二小隊」や『攻殻機動隊』の「公安9課」、『秘密ー トップ・シークレットー』の「科学警察研究所法医第九研究室（第九）」など近未来の架空の警察／公安組織のメンバーとして新種の犯罪に特殊な技術や装備で立ち向かう事例、『逮捕しちゃうぞ』や『ハコヅメ～交番女子の逆襲～』などにおける作品の主役として活躍する女性警察官の事例などを、それぞれの作品の年代とともに記しつつ、複数の作品にまたがる類型や、時代ごとの描かれ方の傾向を示しつつ、そこに説得力あるナラティブを構築する論述のしかたができていのかを評価した。

II.用語解説

【出題の意図】

4 題のうち 2 題を選んで、マンガ・アニメ・ゲーム・特撮等の重要な作家、作品、ジャンル、用語についての確に説明できるかを問うている。なお、実質的に短い小論文を記すことを求める問題であり、多様な回答が考えられ、その全てを示すことは分量が膨大になりすぎ、また一部のみを示すことは出題の趣旨をかえって誤って理解させるものとなるため、一意の解答例は公表を避ける代わりに、キーワードや採点時に重視した観点を解説する。また、下記の解答例から離れた内容の解答であっても、問題文に即して内容が的確であれば適宜評価するものとした。

【解答例（採点時の観点）】

- (1) 20 世紀後半に活躍した日本のマンガ家であること、『三国志』『鉄人 28 号』『魔法使いサリー』『バビル 2 世』『仮面の忍者 赤影』などの代表作を挙げつつその作品群が少年向け、少女向け、大人向けにまたがること、内容的にも歴史もの、ロボットもの、魔法少女もの、SF もの、忍者ものなど幅広いジャンルにまたがっていること、アニメ化された作品も多くとりわけ『鉄人 28 号』と『魔法使いサリー』は巨大ロボットアニメと魔法少女アニメの嚆矢になったことなどについて、的確に解説されているかを評価した。
- (2) 1980 年代から現在まで活躍している日本のゲームクリエイター（ゲームデザイナー）であること、代表作に『ポートピア連続殺人事件』や「ドラゴンクエスト」シリーズがあり、そのシナリオやゲームデザインを担ってきたこと、ロールプレイングゲームをファミリーコンピュータで遊べるようにした『ドラゴンクエスト』とそのシリーズ作品を通じて日本におけるロールプレイングゲームの幅広い浸透に関わったことなどについて、的確に解説されているかを評価した。
- (3) 美内すずえによる少女マンガを代表する大ヒット作で、演劇を題材としており、「北島マヤ」と「姫川亜弓」という対照的な 2 人の少女が、かつての大女優「月影千草」が上演権を持つ『紅天女』の後継者をめぐって競い合う話であること、1970 年代から連載が始まったが、いまだに未完で完結が待たれていること、この間、ドラマ化、アニメ化、舞台化だけでなくオペラや能にもなっていること、白目の表現など、今でもパロディとして使われる印象的な表現やセリフが複数あることなどについて、的確に解説されているかを評価した。
- (4) バンダイが 1990 年代後半より展開している携帯用の卵型の電子ゲームのシリーズであること、「たまごっち」という生き物をペットのように世話をして育成する内容であること、1997 年を中心に日本で社会現象的なブームになったこと、ブームが沈静化した後も通信機能を付加したり液晶をカラー化したり腕時計型にしたり画面をタッチパネル化したりするなど新機軸を盛り込みつつシリーズ展開が続けられてきたことなどについて、的確に解説されているかを評価した。

合否判定の方法及び基準

入学試験は国際日本学研究科のアドミSSIONポリシーに基づき、これを満たす学生を募集することを目的に実施しています。

合否判定については、本研究科のアドミSSIONポリシーを満たすことを、総合的な視点により合否を判断しております。